

わだまん、「リグナンリッチ黒胡麻マイクロパウダー」開発

わだまんサイエンス（075・222・7318）は、「リグナンリッチ黒胡麻マイクロファイバー（F）」を開発、サンプルワークを経て、9月から供給をスタートする。

「SDGs」を念頭に、リグナンオイルの搾油残渣を原料に、80メッシュ90%パスで素材化した凍結微粉砕品。胡麻由来の脂質を約60%脱脂することで、一般の胡麻と比較して、熱量を33%カット。食物繊維、タンパク質含量を約2倍含む。従来品のマイクロパウダー（60メッシュ90%パス）より、安価な価格での供給が可能という。同社では、胡麻由来の食物繊維（28・4g/100g）を含むダイエットユースに最適な新原料として、ヘルシースナッキングのバー、焼き菓子への用途を提案していく。

ダイセル、理研らと酢酸のIgA機能制御突き止める

ダイセル（03・6711・8213）は15日、理化学研究所生命医科学センター粘膜システム研究チームらをはじめとした国際共同研究グループとして実施した研究で、酢酸が免疫グロブリンA（IgA）の細菌反応性を変化させ、腸内細菌の制御に関わる分子メカニズムを解明したと発表した。

短鎖脂肪酸付加セルロースを投与したマウスを用いて検証。短鎖脂肪酸の一種である酢酸を付加したセルロースの投与により、IgA産生細胞やIgA分泌量が増加することを確認した。研究グループでは、「酢酸によつて誘導されるIgAが大腸菌などの病原性片利共生細菌に結合し、大腸表面の粘液層への侵入を阻止することを明らかにした」と説明。「免疫システムは腸内細菌代謝物の刺激によつてIgA産生のパターンを変化させることで、腸内細菌を制御しているものと考えられる」としている。研究成果は科学雑誌「Nature」オンライン版に掲載された。

アルファー食品、玄米で非アルコール性脂肪肝改善

アルファー食品は14日、玄米摂取によるビタミンA代謝亢進が、非アルコール性脂肪肝の予防・抑制につながることを発表した。東京農業大学との共同研究。

試験は、肥満を呈する脂肪肝モデルラットを用いて実施、基本飼料に含まれるコーンスターチを白米・玄米の粉末に置き換えたものを与えて評価した。その結果、玄米を餌に混ぜたラットは、非アルコール性脂肪肝（NAFLD）を示さなかったほか、血中の肝臓の炎症を示すマーカーも低下した。

脂肪肝発症の抑制メカニズムについて、研究グループは脂肪酸の分解（ β 酸化）に関わる遺伝子や分泌に係わる遺伝子が、NAFLDで低下し、玄米摂取で回復・上昇したことに着目。その生合成に関わる遺伝子の発現を解析したところ、玄米摂取群では肝臓中のレチノイン酸生合成が上昇していることを突き止めた。玄米摂取によりビタミンA代謝が亢進し、レチノイン酸の生合成量が増加、核内受容体を介して脂質代謝関連因子遺伝子の発現量が上昇、NAFLDが改善したとしている。

健康産業速報

FAX 通信

発行インフォマーケッツ
 ジャパン(株)速報編集部
 本社〒101-8304東京都千代田区鍛冶町
 TEL 03-52296110 FAX 03-52296110
 週2回発行 税別購読料 年間680000円 半年380000円

●この通信は購読者が直接利用される以外、コピー等による第三者への提供は固くお断りいたします。

DGS市場、コロナ禍で成長持続

上位10社で5兆6840億円

健食は「ダイエット」など続伸

2～5月に決算を迎えた上場ドラッグストア上位10社の決算が出揃い、合計売上高は5兆6840億円になった。物販だけでなく、医療提供施設の側面を併せ持つ小売業態として、コロナ禍における健康意識の高まりが追い風になっている。

健康食品では、外出自粛やテレワークの推進に伴う「コロナ太り」対策のダイエット関連や、運動不足解消のためのプロテイン、健康維持や免疫向上を訴求した青汁や乳酸菌関連などが好調に推移した。

業界首位のウエルシアホールディングスは、コロナ禍を背景に、感染症予防対策商品や食品等の物販が好調。2位のツルハホールディングスは、健康食品の売上高は320億3500万円（8.3%増）になった。

一般食品で攻勢を図る3位のコスモス薬品は、過去最高の増収増益に。4位のサンドラッグも、デイスカウントストア事業における食料品や生鮮食料品などが伸長した。5位のスギホールディングスは、特保や発酵食品など健康・美容食品を強化し、登録販売者スタッフを中心とした栄養ドリンクの提案など、体力・免疫力向上商品の売り場を展開している。

一方、都市型店舗を中心とする展開でインバウンド消失の影響が続くマツモトキヨシホールディングスとココカラファインは減収減益となったが、10月1日付でドラッグストアグループ「マツキヨココカラ&カンパニー」誕生へ向け、経営統合を進めている。

なお日本チェーンドラッグストア協会のまとめでは、20年度のDGS推定売上高は8兆363億円（前年度比4.6%増）。上位10社で約70%を占める。

主要ドラッグストアの連結業績

企業名	売上高 (百万円)	対前期増減率 (%)	
ウエルシアホールディングス	949,652	9.4	2021年2月期
ツルハホールディングス	919,303	9.3	2021年5月期
コスモス薬品	726,424	6.1	2021年5月期
サンドラッグ	634,310	2.7	2021年3月期
スギホールディングス	602,510	11.2	2021年2月期
マツモトキヨシホールディングス	556,907	△5.7	2021年3月期
ココカラファイン	366,440	△9.3	2021年3月期
クリエイトSDホールディングス	338,476	5.9	2021年5月期
クスリのアオキホールディングス	305,880	1.9	2021年5月期
カワチ薬品	284,492	5.2	2021年3月期